

審査の結果の要旨

氏名 アル カディ ジャザエルリ アヤ

論文題目 Design Processes and Management in Architecture. Kengo Kuma & Associates: Between a Design Studio and an Architectural Enterprise (建築における設計プロセスとマネジメントに関する研究: 隈研吾事務所におけるアトリエ性と組織性の関係の考察)

本論文は、隈研吾建築都市設計事務所（以下、KCAA）を主な対象とし、そこでの設計プロセスやマネジメントの方法を分析することで建築設計事務所のあり方を考察するものである。事務所内でのプロジェクトの担当者の個性、事務所組織の構成、そして最終的に生み出される作品との間の関係性を読み解くことが本論文の研究手法である。各オフィススペースの物理的環境やスタッフ構成、他の関連企業や施主との関係性、そしてどのように設計プロセスにおいて意思決定がなされているかなど、隈研吾建築都市設計事務所についてのさまざまな明示的・暗示的な側面を深く考察している。

本論文は、序章・結論をふくむ6章によって構成されている。

第2章では、建築設計が歴史的にどのような体制で行われていたのかを概観している。ここでは、建築家という職能の起源から、SOMなどのアメリカにおける組織設計事務所の成り立ち、さらにはグローバリズムの中で発生したスターアーキテクトまで、種々の建築設計の主体のモデルを紹介し、それぞれのモデルを整理している。日本国内では、明治以降に主に着目し、同様に種々のモデルを紹介・整理している。この中でHenry-Russell Hitchcockによる論考

“The Architecture of Bureaucracy and the Architecture of Genius”を論理的背景として、取り上げたモデルをジーニアス・モデルと官僚的モデルの二つに大きく分類している。そしてKCAAを両者のハイブリッドモデルとして定義している。

第3章では、「KCAAの資源」というテーマで、KCAAにおけるスタッフ、ソフト・ハードウェア、事務所スペース、ライブラリー、ポートフォリオを分析している。

第4章では、「KCAAの価値」というテーマで、KCAAにおける思想、論考、設計手法を分析している。

第5章では、「KCAAのプロセス」というテーマで、KCAAにおけるプロジェクトのチーム体制、その中でのヒエラルキー、設計の決定プロセス、事務所外との協働手法について分析されている。

以上の分析を経て、結論である第6章では、KKAAの事務所モデルとしての新規性を整理し、一般化することを試みている。

本論文は、これまで着目されてこなかった建築設計事務所のモデルを体系化し、その中でKKAAを分析し、新しいモデルとして定義したことがその最大の成果である。審査会においてもその点が極めて高く評価された。審査会では、本論文が示した研究手法を手掛かりに、どのような発展可能性があるかに焦点が当てられて以下のような議論がおこなわれた。研究成果がどのようにこれからの事務所モデルに貢献できるのかという点や、ハイブリッドモデルにおいて生み出される作品にどのような傾向があるか、ヒエラルキーのない水平的なプロジェクトチームの編成における設計プロセスのより詳細な記述ができないか、などである。このような議論や指摘に対してアヤ君は真摯に回答し、本研究が持つ大きな可能性について審査員に示した。

よって、本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。